中国四国農政局
ディスカバー
農山漁村の宝
選定地区

ディスカバー農山漁村の宝

【お問い合わせ先】

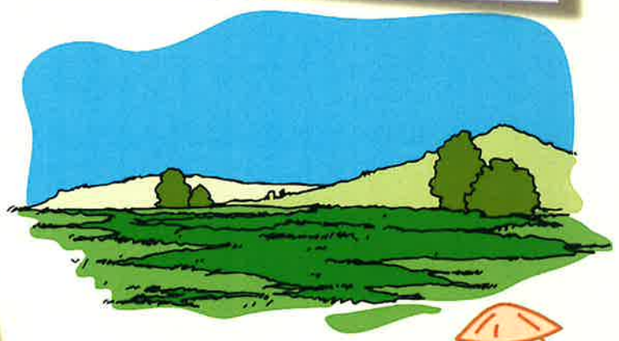
中国四国農政局広島県拠点地方参事官室
〒730-0012　広島県広島市中区上八丁堀6-30　広島合同庁舎2号館6階
☎082-228-5840

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532　岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号
☎086-224-4511（代表）

ディスカバー農山漁村（むら）の宝
（第９回応募団体）

取組事例集

これからは、農山漁村（むら）の時代だ。



令和５年３月
中国四国農政局

広島県

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和４年度）で９回目となります。

中国四国農政局管内では177件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として９地区と１名が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区（者）の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として９地区を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として28地区と２名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区（者）の事例について、その地域の「農山漁村（むら）の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。
各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html

令和５年３月
中国四国農政局農村振興部

目　　次

○ 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について ・・・・・・・・ 1

○ 応募地区（者）一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

○ 応募地区（者）位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

○ 応募地区（者）の取組事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

１．「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）では、令和４年６月 16 日から８月 26 日までに、農山漁村活性化の取組として全国から 616 件（管内からは 177 件）の応募があり、令和４年 11 月７日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）有識者懇談会において、団体部門（ビジネス・イノベーション部門及びコミュニティ・地産地消部門）で 33 地区と個人部門で４名が「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として選定されました。

中国四国農政局管内からは９地区と１名が選定され、その中から優秀賞のビジネス・イノベーション部門に高知県四万十町の「株式会社四万十ドラマ」、優秀賞のコミュニティ・地産地消部門に岡山県岡山市の「瀬戸内かきがらアグリ推進協議会」、優秀賞の個人部門に島根県奥出雲町の「大石亘太」、特別賞に鳥取県鳥取市の「NPO 法人 bankup」、徳島県海陽町の「株式会社リブル」、高知県高知市「高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部」が選定されました。

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

２．中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった177件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信するため、令和４年10月20日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、９地区を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として28地区と２名を選定しました。

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
オリジナルロゴマーク

３．管内選定地区（者）の概要

（１） 全国版選定（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第９回選定））

NPO 法人 bankup（鳥取県鳥取市）　特別賞

●大学生ボランティアの農村への派遣を 20 年以上継続して実施。
●交流企画や地域産品の加工販売を行う「農村 16 きっぷ」や米の生産から販売まで行う「田舎応援戦隊三徳レンジャー」等、地域活動のプロジェクトをおもしろいネーミングで運営。

学生ボランティアの様子

大石 亘太（島根県奥出雲町）　優秀賞

●牛の放牧が創り出す風景に憧れて牧場として省力的に山を管理し、多目的に利用できるフィールドとして整備するとともに、小頭数飼育により適正量の堆肥を土地に還元。
●バター作り体験などの観光メニューを提供するとともに、地域の保育園、幼稚園及び小学校の校外学習や遠足を受け入れ、「牛のいる風景」を解放。

来場者に牛の説明をする大石氏

瀬戸内かきがらアグリ推進協議会（岡山県岡山市）　優秀賞

●漁業関係者のみならず地域としての処理課題であった瀬戸内海で水揚げされた牡蠣の殻を加工粉砕して、農畜産物の生産・飼育に活用した農業を実施。
●牡蠣殻を農業者の手によって資源循環させた農畜産物を生産し、「里海米」など生産物に「里海」を冠してブランディング。

全国で排出される年間の
牡蠣殻は約 16 万トン

上籾みろく農場協議会（岡山県久米南町）

●耕作放棄地が目立っていた上籾地区中央の棚田を企業と共同で復元。継続して棚田の管理と農作業を実施。
●復元した棚田を見渡せる古民家カフェを運営。地元の農産物を使ったメニューを開発・提供するとともに、手作りの特産品や棚田米、オリジナル商品を販売。

棚田が見渡せる古民家カフェ
（棚田テラス「籾庵」）

川西自治連合会（広島県三次市）

●人口減少・高齢化とともに地域内産業が衰退。住民出資の地域運営株式会社と、地区全体で構成する自治連合会の２層構造により、農地・農業を守り、雇用を創出し、地域内経済循環を形成。
●少量多品目の農産物でも収益があげられるように、農村型コンビニを中心に、産直市、農産加工品販売、軽食堂部門を併設した、地域生活交流拠点「川西郷の駅」を運営。

地域と共に開催した
郷の駅感謝祭

かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

●過疎高齢化のため、単一地区での棚田保全・活性化活動の推進は困難なため、４地区で連携して活動。コロナ禍で、オンラインでの交流を行う「棚田ウェブ談議所」を開催し、町内外の人材と関係を構築。
●オンラインとリアル交流による「全国キッズ交流」、「オンライン産直市交流」と、これらの活動の発展系として「美しい村24時間オンラインライブ」を開催。

棚田ウェブ談義所

株式会社リブル（徳島県海陽町）　特別賞

●牡蠣の養殖で、データやアプリを活用して養殖技術の見える化を図り、養殖技術支援と強い種苗の生産の新規産業を創出。
●IT 技術を駆使した新たな水産業への理解醸成に向けて、小学校などの教育現場への出前授業や漁場案内等を実施。

地元の学生の漁場見学を毎年受入

株式会社山南営農組合（香川県三木町）

●効率的な農業の推進や地域の魅力を県内外に伝えることを目的に設立。地域のブランド米「小簑（こみの）米」の生産・販売等を実施。
●産直、レストランのほか、昔ながらの田舎暮らしが体験できる農家民宿を開業。学生や地域おこし協力隊とも連携した取組を展開。

地元農産物を提供する
農村レストラン

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部（高知県高知市）　特別賞

●地域課題である鳥獣被害の解決に向け、高校生が地元のシカやイノシシ肉を原料として商品開発を行い、販売。
●クラウドファンディングによって森林保護活動の資金を調達し、返礼品としてジビエ商品を活用。

高校生ジビエ・レストラン

株式会社四万十ドラマ（高知県四万十町）　優秀賞

●「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに地域の６次産業化に取り組む「地域商社」を実現。
●「しまんと地栗工場」の建設により以前の約５倍の製造体制が整い、地域の雇用の場となっている。栗の新植、芋の作付面積を拡大する取組等を開始。

高知県版 HACCAP を取得した工場

（２）地方版選定（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

株式会社　ｐｃｂ（鳥取県南部町）

●「ジェラートで地域おこし」を目標に、地域の小規模農家からその日に販売する分だけの農産物を買い取り、ジェラートに加工して販売。
●コロナ禍で来店が難しいという声があり、移動販売車を導入。
●週に１回、地元ラジオ局の「ジェラテリアお千代さん」というコーナーで、旬の農作物の話題、地域の話題などを発信。

地元の旬な農作物が新鮮なジェラートへ

社会医療法人正光会 さんさん牧場（島根県益田市）

●引退後の競走馬の貴重な受け皿となり、乗馬やセラピー、馬事文化の継承として流鏑馬神事に参加するなど様々な活動を行う。
●農福連携として、同法人Ｂ型事業所と市内の卸売業者と連携した「農・商・福連携事業」を実施。障害者の社会参加や地産地消の推進に貢献。
●有機質が多い馬糞を活用した循環型農業を実施。

観光牧場として、休日は親子連れで賑わう

おかき戦隊瀬戸南じゃ～（岡山県岡山市）

●学生が有機農法で育てたもち米と地域の特産品を使い新商品「瀬戸南おかき」を開発。
●カラフルなつなぎで地域イベントに参加し、販売活動を行うとともに、地域特産品の宣伝にも取り組む。

地域の販売会で歌を披露

広島みはらプリンプロジェクト実行委員会（広島県三原市）

●広島みはらプリンで三原のまちと食材の付加価値向上や地域経済循環を図り、全国へ発信。「三原の食材を一つ以上使用」「三原を応援する人（店）」が作ったプリンであれば、随時認定。
●イベントにも積極的に参加し、他地域での催事に出店し、プロモーションを実施。公式の HP や Instagram も開設し、認定されたプリンの紹介やイベント出店情報などを発信。

各店のこだわりが詰まった認定プリン

エシカルバンブー株式会社（山口県防府市）

●「竹害」を「竹財」に変える。環境保全・再生のために伐採した不要な竹に付加価値を付け、未来に有益な竹産業を残す。
●竹の研究者や竹炭職人と連携して商品開発。地域企業とのコラボ商品開発等で、竹の全部位を活かすエシカルなものづくりを追及。
●竹関連事業者の支援及び次世代に繋ぐ竹育や情報発信を行う「竹 LABO」の総合監修・運営。

放置竹林の伐採の様子

合同会社みつぐるま（徳島県海陽町）

●轟神社及び海部川流域における１次産業振興支援。海部川流域での酒米作りから酒蔵との連携、細部にまでこだわり抜いたオリジナル御神酒作りに取り組む。
●文化庁事業を活用し、地域の魅力を体感するツアーを企画・造成。
●轟神社公式 HP 製作運営し、海部川流域の自然環境や文化を発信。

轟神社秋例大祭

アスパラ大騒ぎ実行委員会（香川県高松市）

●地元企業の協力を得て、廃棄対象となるアスパラの軸下部分をパウダーに加工して料理に使用。アスパラ素麺を企画開発。
●アスパラをモチーフとした帽子、アクセサリー、皿等を企画販売の他、アスパラ人形作り、顔抜きパネルの制作、アスパラ×和菓子のワークショップやトークショーを実施。
●県内の飲食店が個性あふれるアスパラ料理を展開。

高校デザイン科制作オブジェ
顔抜きパネル

愛媛県立南宇和高等学校農業クラブ（愛媛県愛南町）

●柑橘類において教育機関として初めて河内晩柑・甘夏で GGAP 認証を取得し、東京オリンピック選手村に提供して愛南ゴールド(河内晩柑)を PR。
●地元水産加工会社により、GGAP 認証の愛南ゴールドと MEL 認証の養殖真鯛のコラボで「愛南ゴールド真鯛」を開発。

柑橘類で教育機関初の
GGAP 認証取得

特定非営利活動法人日高わのわ会（高知県日高村）

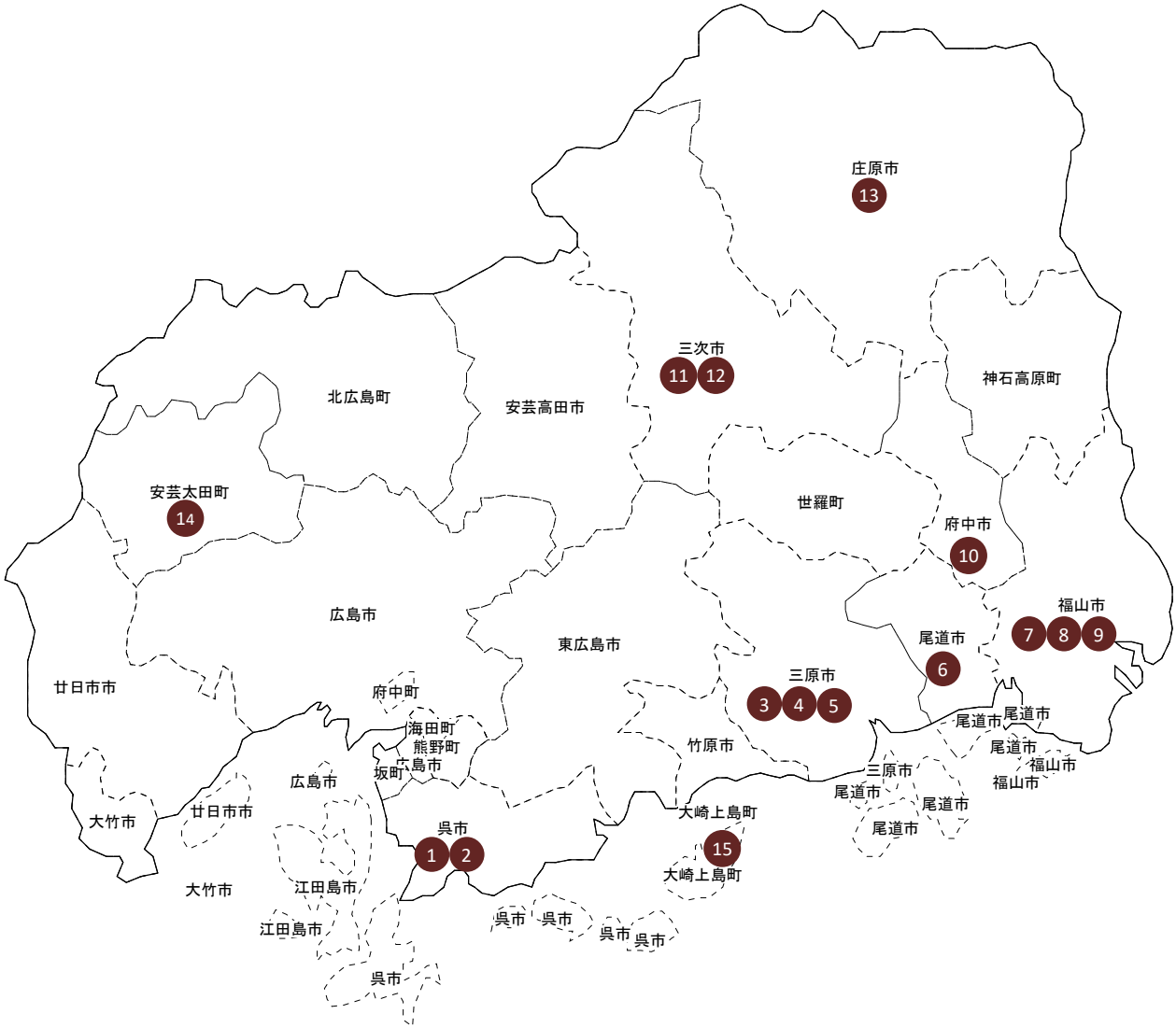
●「できる人が　出来ることを　出来る時間に」を合言葉に社会的弱者が地域を支える仕組みを構築。地域の困りごとを解決するコミュニティ産業の開発と展開。障がい者支援など大小合わせて約 30 事業を展開。
●小規模多機能型の事業を展開することで、行政サービスでは届ききらないニッチな住民ニーズに対応。

とまととでの記念撮影

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第9回選定） 応募地区 一覧 （広島県）

No.	選定地区	部門	市町村	地区名	該当する取り組み		
①		団体	呉市	有限会社 石野水産	水産業	6次産業化	関係人口の創出
②	奨励賞	団体	呉市	倉橋交流拠点構想推進協議会	農泊	多様な分野との連携	関係人口の創出
③		団体	三原市	広島みはらプリンプロジェクト実行委員会	6次産業化	企業との連携	地産地消
④		団体	三原市	株式会社八天堂ファーム（八天堂ぶどう園）	農業	農福連携	―
⑤		団体	三原市	株式会社八天堂（八天堂ビレッジ）	地産地消	―	―
⑥	奨励賞	団体	尾道市	広島「怪獣レモンプロジェクト」	農業	6次産業化	企業との連携
⑦		団体	福山市	福山くわい出荷組合	農業	6次産業化	伝統の継承
⑧		団体	福山市	特定非営利活動法人 あいあい広場	農業	農福連携	食育・教育
⑨		団体	福山市	道の駅アリストぬまくま	農業	水産業	地産地消
⑩		団体	府中市	一般社団法人 協和元気センター	伝統の継承	荒廃農地対策	高齢者の活躍
⑪		団体	三次市	川西自治連合会	農業	企業との連携	雇用
⑫		団体	三次市	株式会社福田農場	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑬		団体	庄原市	広島県立庄原実業高等学校	荒廃農地対策	食育・教育	農村環境・景観保全
⑭		団体	安芸太田町	いにぴちゅ会	企業との連携	棚田保全	農村環境・景観保全
⑮	奨励賞	団体	大崎上島町	一般社団法人まなびのみなと	地産地消	食育・教育	学生・若者の活躍

応募地区位置図（広島県）


庄原市
13
三次市
11
12
神石高原町
北広島町
安芸高田市
安芸太田町
14
世羅町
府中市
10
福山市
7
8
9
広島市
東広島市
尾道市
6
三原市
3
4
5
廿日市市
府中町
海田町
熊野町
広島市
坂町
竹原市
尾道市
尾道市
尾道市
福山市
福山市
三原市
尾道市
尾道市
尾道市
大竹市
廿日市市
呉市
1
2
大崎上島町
15
大崎上島町
大竹市
江田島市
江田島市
呉市
呉市
呉市
呉市
呉市

1 広島県呉(くれ)市

水産業 | 6次産業化 | 関係人口の創出

有限会社(ゆうげんがいしゃ)　石野水産(いしのすいさん)

～瀬戸内小さな島だけど魅力発信で元気な島に～

自社のちりめん商品

段々畑、加工場の体験会の様子

経　緯

○昭和5年創業の網元。漁獲から加工までクリアな商品が少ないと気づき生産者自ら商品化。県内で広く取り扱われる商品づくり。
○漁業は海につながる山も大事と考え、先人の財産の石積みの段々畑が耕作放棄となっていく現状から、従来の農業だけでなく観光とつなげることを思い立つ。

取組内容

○地域資源の販売、観光誘致で地域の活性化。
○広島ブランドショップTAUの開業に併せて東京での販売開始。商品づくりのため地元の対面販売の機会を増やしオリジナル商品を製造、販売。
○コロナ禍で販路を失った花き（薔薇）や生牡蠣の販売にも着手、地域ブランド化を推進。

活動の効果

○地元百貨店のギフト販売、地元大手スーパーの県内全店販売など広島での地位を確立。また、産直ECサイトの水産部門では2年連続アワード上位入賞。
○段々畑の活動は、産直での高付加価値販売や観光業の再開で新しい兆しを見出す。
○「おてつたび」で島外から来た人の想いなどを参考に、今後の漁業における短期移住や、新しいやりがいのある働き方の提案に手応え。
○地域ブランドの販売は、今後フレームワークを作りさらに拡大し、事業の基盤を築く。

応募団体からのアピール・メッセージ

地方の小さな漁師が地元のおいしいものを届け、それに共感する仲間が移住、労働力、地域の活力を作ることを目指しています。

呉市倉橋町17800　Tel：0823-54-1505

2 広島県呉(くれ)市

農泊 | 多様な分野との連携 | 関係人口の創出

奨励賞

くらはしこうりゅうきょてんこうそうすいしんきょうぎかい
倉橋交流拠点構想推進協議会

～島の日常がエンターテイメント～

桂浜松林のライトアップ

未利用の農水産物を利用したフリット

経　緯

○当地域は「遣唐使まつり」等の大規模行事を自主的に企画・実施し地域の活性化に取り組んできた。
○平成29年、倉橋漁港整備の議論を契機に地域の将来像を共有し、更なる自立と活性化に向けて、自治会、漁業者、農業者、商工団体、NPO等組織が連携し、本協議会を設立。

取組内容

○地域外の観光客を農泊で受け入れるため勉強会・研修会を実施。地域情報を集約する窓口を設けて効果的な情報発信。
○地元の農水産物を活用した料理やお土産等を開発、島の新名物グルメとして提供。
○SUP、ドッグラン、シーカヤック等体験プログラムやシーサイド桂ヶ浜荘、SEE SEA SON（シーシーズン）等、新たな宿泊施設を整備し、来訪者へ地域資源の魅力を伝える。

活動の効果

○農泊推進事業を活用した取組は、倉橋地域一体でまちづくりを行うことができた。
○これらの取組が町内外の来訪者から好評を博し、倉橋島の新たな魅力の発見・発信と交流人口の増加に繋がっている。
○さらに、この活動が新聞やテレビ等マスコミで取り上げられ、当協議会の知名度が上がり、会員が増える等相乗効果をもたらしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

当協議会は多様な団体やグループから倉橋地域の未来を担う若手が中心に参画するワーキンググループを組織し、自主的なまちづくり活動を行っている。

呉市倉橋町888（倉橋西部漁業協同組合内）　Tel：0823-53-0050

3 広島県三原市（みはら）

6次産業化　企業との連携　地産地消

中国四国農政局 ディスカバー 農山漁村の宝 選定地区

広島みはらプリンプロジェクト実行委員会（ひろしま じっこういいんかい）

～「ゆめ」をつめて 「まち」をひとつに～

各店のこだわりが詰まった認定プリン

市外催事にも積極的に出店しPR

経　緯

○広島県三原市には、季節を彩る果実や野菜、自然が育んだ牛や鶏、瀬戸内海のタコや魚など、海・山・里の幸が沢山。
○豊かな自然と三原の人々が育んだ食材を全国にPRするために、様々な食材を巻き込むコンテンツとして「プリン」を使ったまちおこしをしていくことに。

取組内容

○広島みはらプリンで三原のまちと食材の付加価値向上や地域経済循環を図り、全国へ発信。
○スイーツ系の「デザートプリン」、惣菜系の「デリカプリン」の2つのカテゴリー。
○「三原の食材を一つ以上使用」「三原を応援する人（店）」が作ったプリンであれば、随時認定。三原を応援してくださる人やお店であれば、市外の方でも参加可能。

活動の効果

○「デザート」と「デリカ」の2つのカテゴリーのプリンを使ったまちおこしは、全国初。
○公式のHPやInstagramも開設し、認定されたプリンの紹介やイベント出店情報などを発信。市外の催事にも積極的に出店し、他地域での展開やプロモーションも実施。
○自店舗での販売以外に、JR三原駅や催事での販売において参加店の売上（所得）向上にも寄与しているほか、地域内消費の拡大の結果、農・畜・水産業の一次生産者も所得が向上。

応募団体からのアピール・メッセージ

飲食店や洋・和菓子店など、市内の事業者が経済団体と連携して新名物づくりに挑戦！地元食材を使用し、まちや食材への思いを表現した各プリンを開発。市と連携し制作した、さまざまな市民が登場するPR動画も話題になっています。

事務局・三原商工会議所　Tel：0848-62-6155